

令和4年度食品ロス実態調査の結果概要

1 実施概要

■実施日時	令和4年10月6日（木）13:00～16:20
■作業場所	函館市日乃出町26番2号 函館市日乃出清掃工場（プラットホーム）
■調査試料	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭から排出される燃やせるごみのうち、地域性によるごみの質の違いを勘案し、5地区（①住宅地、②団地、③商業地、④農業地、⑤漁業地）から検体を収集した。 ・5地区合計で約794kgの検体を小型貨物車で収集し、ごみ袋を破き、攪拌し試料として四分法により約200kgを採取した。 ・約200kgの試料から食品廃棄物等として分類された約82kgを対象に、調査を行った。

2 調査結果の概要

（1）試料中の食品廃棄物等の割合

調査対象とした試料（図表1）については、5地区合計で207袋、793.75kgを収集した。その後、収集したごみを攪拌し、四分法により204.22kgを採取し、ごみ組成分析調査の試料とした。

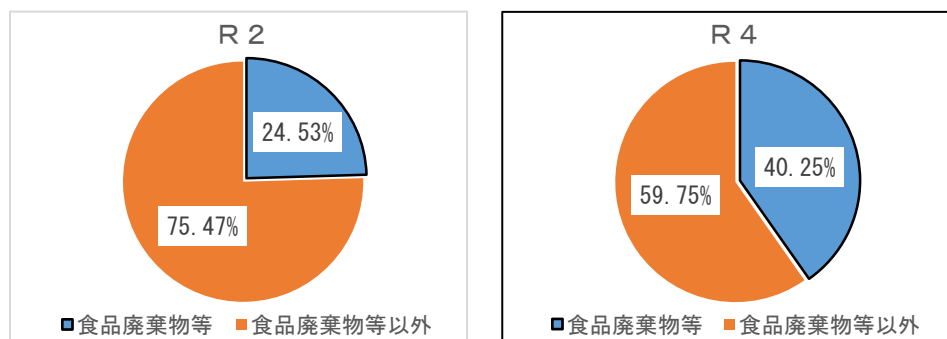
なお、食品ロス実態調査については、令和2年度以来、2度目の実施である。

図表1 調査対象とした試料概要

調査年度	重量	サンプリング試料
R 2	1,085.70 kg	201.50 kg
R 4	793.75 kg	204.22 kg

試料中の食品廃棄物等（厨芥類）の割合（図表2）については、40.25%となっている。

図表2 試料中の食品廃棄物等の割合



調査年度	サンプリング試料 A	うち食品廃棄物等 B	食品廃棄物等割合 C = (B/A)	食品廃棄物等以外 D = (1-C)
R 2	201.50 kg	49.42 kg	24.53%	75.47%
R 4	204.22 kg	82.20 kg	40.25%	59.75%

(2) 食品ロス（直接廃棄，食べ残し）の割合

ごみ組成分析調査において，食品廃棄物等（厨芥類）に分類されたものについて，図表3のとおり分類し，調査をした。

図表3 調査分類表

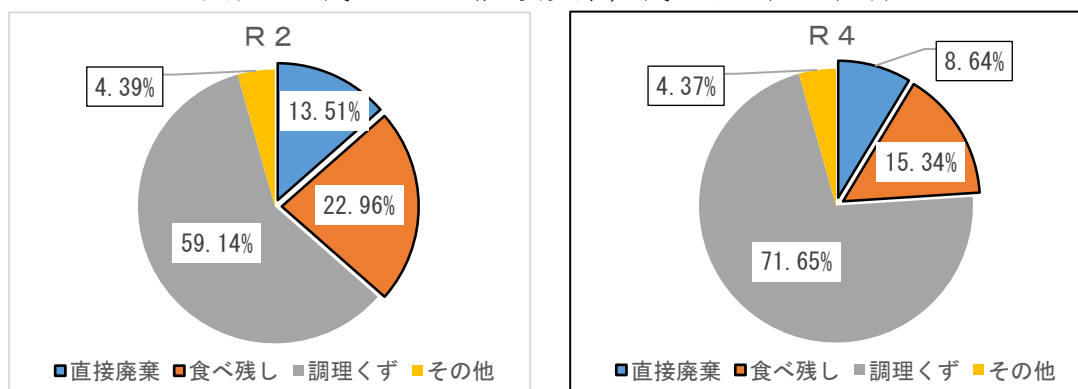
	分類	概要	具体例
	①調理くず	調理過程から排出された不可食部	野菜・果物の皮，くず，芯，魚の骨・内臓，エビの殻，貝の殻，動物の骨，卵の殻，出汁用の昆布など
食品ロス	②直接廃棄（手付かず食品）	購入後全く手が付けられずに捨てられたもの	野菜，果物，卵，魚介類，肉類，パン類，菓子類，麺類，缶詰，瓶詰め，大豆製品（納豆，豆腐），乳製品（ヨーグルト），調味料（マヨネーズ，ソース）など
	③食べ残し	調理され，または生のまま食卓にのぼったもの	ご飯，パン，麺類，おかず，開封後の弁当，開封後の総菜など
	④その他	生ごみとともに排出され易く，上記に分類されないもの	コーヒー，茶殻，ペットフードなど

食品廃棄物等のうち，「調理くず」および「その他（コーヒー殻，茶殻など）」を除く「直接廃棄（手付かず食品）」および「食べ残し」を食品ロスとする。

食品廃棄物等のうち食品ロスの重量割合は，23.98%となり，令和2年度の調査と比べ低下した。（図表4）

なお，食品ロスの内訳としては，食品廃棄物等のうち，まったく手付かずの直接廃棄（100%残存）が8.64%，食べ残しが15.34%を占めている。

図表4 食品ロス（直接廃棄，食べ残し）の割合



調査年度	食品ロス割合	うち直接廃棄	うち食べ残し
R 2	36.47%	13.51%	22.96%
R 4	23.98%	8.64%	15.34%

※いずれも重量ベース

この結果を踏まえ、本市の食品ロス発生量（図表 5）を推計する。

本市の令和 4 年度のごみ排出量は現時点では不明であることから、仮に、令和 3 年度の家庭系可燃ごみ排出量を基に、年間の食品ロス発生量を算出すると、約 4,343t（直接廃棄 1,565t、食べ残し 2,778t）と推計される。

前回調査に比べ、食品廃棄物等に占める食品ロスの割合は低下した一方、試料中の食品廃棄物等の割合は大きく上昇したことから、食品ロス発生量は増加している。

図表 5 函館市の食品ロス発生量（推計値）

調査年度	排出量	食品ロス	うち直接廃棄	うち食べ残し
R 2	R 元実績	4,076 t	1,510 t	2,566 t
	R 2 実績	4,081 t	1,512 t	2,569 t
R 4	R 3 実績	4,343 t	1,565 t	2,778 t

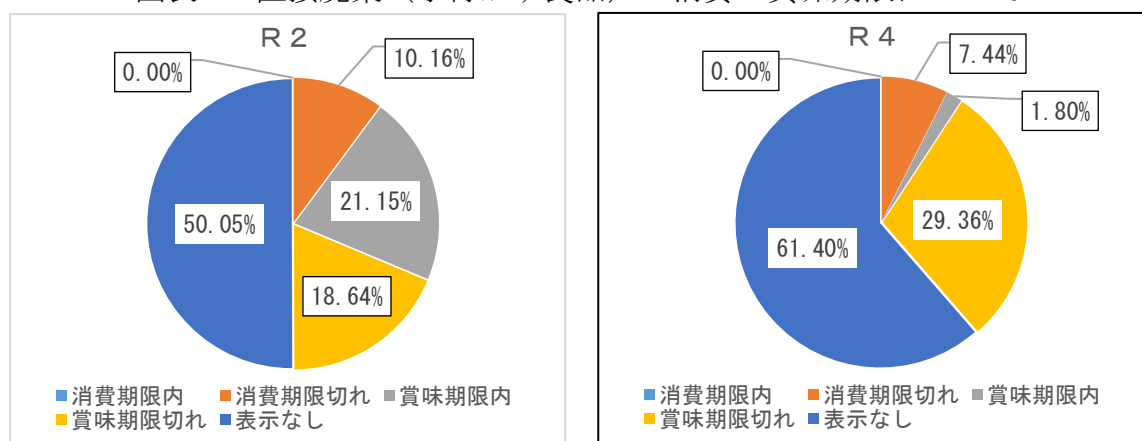
※令和 2 年度調査時点では、令和元年度のごみ排出量を基に仮推計

（3）直接廃棄されたものの消費・賞味期限について

直接廃棄（手付かず食品）の消費・賞味期限（図表 6）については、「表示なし」が最も多く 61.40%であり、「消費期限」の表示があったものは 7.44%（すべて期限切れ）、「賞味期限」の表示があったものは 31.16%（期限内 1.80%、期限切れ 29.36%）となっている。

消費期限については、期限内廃棄はなく、期限切れ廃棄のみとなっており、賞味期限についても、期限内廃棄に比べ、期限切れ廃棄の方が多くの割合を占める結果となっている。

図表 6 直接廃棄（手付かず食品）の消費・賞味期限について



調査年度	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
R 2	0.00%	10.16%	21.15%	18.64%	50.05%
R 4	0.00%	7.44%	1.80%	29.36%	61.40%

※いずれも重量ベース

この結果から、年間の直接廃棄の推計発生量 1,565t のうち、消費期限切れ廃棄は 116t、賞味期限内廃棄は 28t、賞味期限切れ廃棄は 460t、表示なしは 961t と推計される。(図表 7)

前回調査に比べ、賞味期限内廃棄の割合が大きく低下したため、賞味期限内廃棄の食品ロス発生量は減少した一方、賞味期限切れ廃棄の食品ロス発生量は増加する結果となった。

なお、直接廃棄の消費・賞味期限の表示があったもののうち、まだ食べられる期限内の食品は 5%程度捨てられていることになる。

図表 7 函館市の直接廃棄における期限表示別食品ロス発生量 (推計値)

調査年度	排出量	消費期限		賞味期限		表示なし
		期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
R 2	R 元実績	0 t	153 t	319 t	282 t	756 t
	R 2 実績	0 t	153 t	320 t	282 t	757 t
R 4	R 3 実績	0 t	116 t	28 t	460 t	961 t

※図表 5 と同様、R 2 調査結果割合×R 2 ごみ排出量実績以外は仮推計

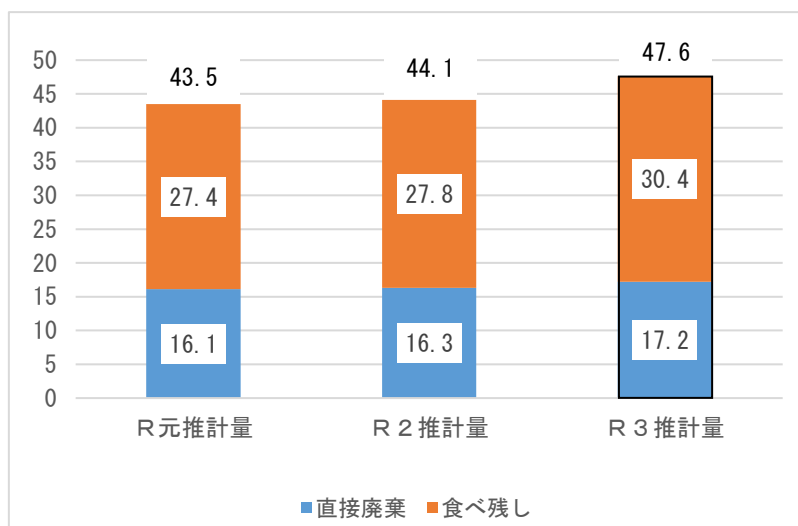
(4) 1人1日あたりの食品ロス発生量

調査結果を踏まえて、仮に、本市の1人1日当たりの食品ロス発生量(図表 8)を推計すると、約 47.6g/人・日となり、その内訳は、直接廃棄が 17.2g/人・日、食べ残しが 30.4g/人・日となった。

また、年間ベースで推計した場合、1人当たり約 17 kg、1世帯当たり約 31 kgの食品ロスを排出している計算となる。

図表 8 1人1日あたりの食品ロス発生量

(g/人・日)



※R元推計量およびR3推計量は食品ロス実態調査時公表推計値

3 調査結果の推移

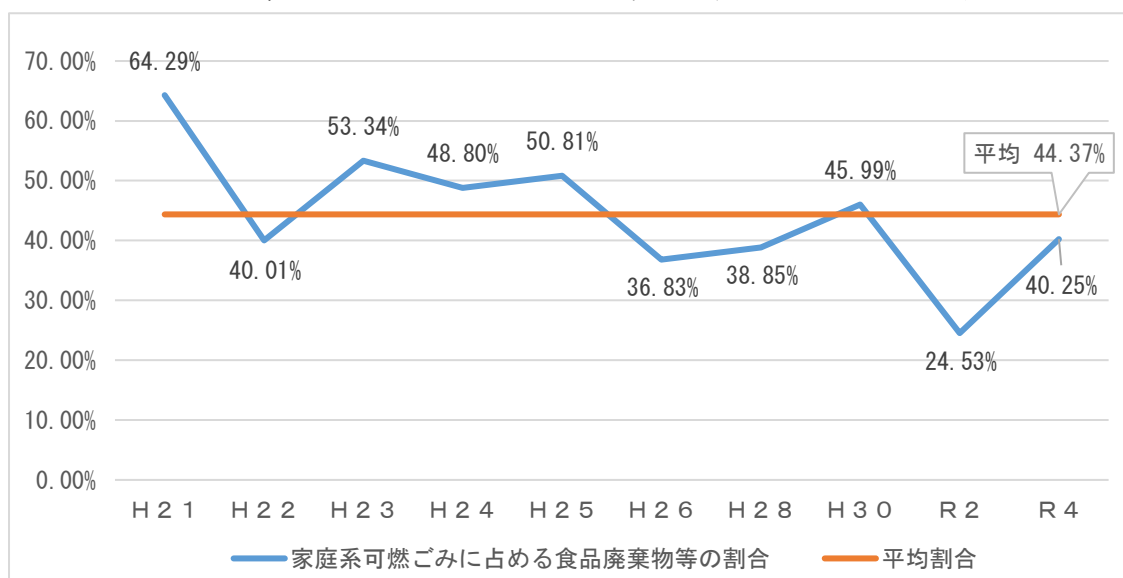
(1) ごみ組成分析調査における試料中の食品廃棄物等の割合の推移

食品ロス実態調査は、令和2年度に初めて実施し、今回で2度目であるが、本市では、近年は家庭系の可燃ごみおよび不燃ごみの「ごみ組成分析調査」を交互に実施しており、隔年で行われる家庭系可燃ごみの組成分析調査に併せて調査を実施し、食品廃棄物等（厨芥類）に占める食品ロスの割合を算出している。

直近10回分の家庭系可燃ごみに占める食品廃棄物等の割合の推移（図表9）を見ると、令和2年度は例年に比べて大幅に低いことが分かり、この主な要因としては、例年に比べ繊維類の割合が高かった影響等が考えられるが、令和4年度は例年並みであり、直近10回分の調査の平均割合に比べ少し低いと言える。

こうした影響を考慮し、家庭系可燃ごみ全体に占める食品ロスの割合を算出した場合、令和2年度の8.94%から9.65%へ微増している。

図表9 家庭系可燃ごみに占める食品廃棄物等の割合の推移



(2) 食品ロス実態調査における食品廃棄物等中の食品ロスの割合の推移

これまで項目ごとに挙げてきた食品ロス実態調査結果および本市推計量の推移は、図表10のとおりである。

食品廃棄物等（厨芥類）の割合は、図表9のとおり、前回の令和2年度と比較した場合には、例年並みとはいえ高い結果となった一方、食品廃棄物等に占める食品ロスの割合については、低い結果となっている。

食品ロスの割合の内訳についても、直接廃棄および食べ残しともに30%以上低下しており、食品ロス全体で低くなる結果となった。

また、直接廃棄のうちの期限表示別の割合については、賞味期限内廃棄は大幅に低くなった一方、賞味期限切れ廃棄は高くなっており、賞味期限内の食品ロスは減少したが、依然、賞味期限切れ廃棄が多いことから、賞味期限と消費期限の違いや期限内に食べきるための啓発を継続する必要があると考えられる。

本市の食品ロス発生量は、引き続き、4,000 t以上と推計されており、家庭系食品ロス原単位（1人1日当たり食品ロス発生量）は微増しているものの、年間

1人当たりおよび1世帯当たりについては、前回調査と比べほぼ変わらない結果となっている。

図表 10 食品ロス実態調査結果および本市推計量の推移

区分			R 2 (割合)	R 4 (割合)	増減率	
調査結果	食品廃棄物等	食品ロス	直接廃棄	13.51%	8.64%	△36.0%
			うち消費期限内	0.00%	0.00%	0.0%
			うち消費期限切れ	10.16%	7.44%	△26.8%
			うち賞味期限内	21.15%	1.80%	△91.5%
			うち賞味期限切れ	18.64%	29.36%	57.5%
			うち表示なし	50.05%	61.40%	22.7%
			食べ残し	22.96%	15.34%	△33.2%
			合計	36.47%	23.98%	△34.2%
	調理くず	59.14%	71.65%	21.2%		
	その他	4.39%	4.37%	△0.5%		
区分			R 2		R 4	
			R 元実績	R 2 実績	R 3 実績	
本市推計量	食品ロス量		4,076 t	4,081 t	4,343 t	
	うち直接廃棄		1,510 t	1,512 t	1,565 t	
	うち消費期限内		0 t	0 t	0 t	
	うち消費期限切れ		153 t	153 t	116 t	
	うち賞味期限内		319 t	320 t	28 t	
	うち賞味期限切れ		282 t	282 t	460 t	
	うち表示なし		756 t	757 t	961 t	
	うち食べ残し		2,566 t	2,569 t	2,778 t	
	1人1日当たり		43.5g/人・日	44.1g/人・日	47.6g/人・日	
	うち直接廃棄		16.1g/人・日	16.3g/人・日	17.2g/人・日	
	うち食べ残し		27.4g/人・日	27.8g/人・日	30.4g/人・日	
	年間1人当たり		16 kg	16 kg	17 kg	
	年間1世帯当たり		30 kg	30 kg	31 kg	

〈参考〉 調査実施時の写真



組成調査の様子（分別作業）



①調理くず



②直接廃棄



③食べ残し



④その他